

中井だより

中井やまゆり園

利用者目線の支援

園長 菅野 大史

園長として4年目の春を迎えました。引続きよろしくお願いたします。

当園では、一昨年、昨年と立て続けに不祥事や事故が発生、ご家族・後見人の皆様にはご心配、ご迷惑をおかけしました。これらの事案については、第三者を交えて原因等についてしっかりと検証し、現在、改善計画に基づき再発防止に取り組んでおりますが、新年度に入り職員の一部に入替わりがありましたので、引継ぎをしっかりと行うなど、こうした取り組みや利用者の皆さんへの支援が途切れることがないよう努めているところです。

また、新型コロナウイルス感染防止のための、外泊や面会の制限につきましても、引続きご協力いただいていることに、この場をお借りしてお礼申し上げます。変異株の感染拡大など、まだまだ先が見えない状況ではありますが、ご家族からの要望を踏まえ、「間接的な面会」からの再開を考えておりますので、ご理解の程お願いたします。

＜利用者目線の支援＞

すでに皆様にはお伝えしておりますが、津久井やまゆり園の事件をきっかけに、県では、県立障害者支援施設における支援の検証と、利用者目線の支援など、障害者支援施設における未来志向の支援のあり方の検討を目的に、「障害者支援施設における利用者目線の支援推進検討部会」を昨年7月に設置しました。

この部会は、6つの県立施設を対象に、主に施設での身体拘束の状況に関する調査を実施、当園は11月に調査を受けました。その結果、「長時間の居室施設を長期間にわたり行っている事例がある」との指摘を受けた上で、「安心・安全を確保することが困難なことを理由に身体拘束を行っている」「身体拘束に頼らない支援方法の開発が不十分である」「建物の構造上の問題や職員のマンパワーの問題から、できる支援はここまでと限定してしまっている」など、厳しい意見をいただきました。

園では、身体拘束の実施に際しては、定期的に会議を開催しその必要性や妥当性をしっかりと検討するなど、必要な手続きを取りながら対応を進めてきましたが、今回のヒアリングの結果から、その取り組みがまだまだ不十分であることを認識させられました。

そこで、本年度は園の「重点取組課題」の大柱のひとつに「利用者目線に立った支援」を掲げ、身体拘束によらない利用者目線に立った支援や、利用者の意思をしっかりと確認しながら、利用者本人が望む暮らしの実現に向けての支援を進める「意思決定支援」に、より積極的に取り組むこととしました。

こうした取り組みについて職員一人ひとりが自分事としてしっかりと受け止め、利用者の皆さんやそのご家族、後見人の皆さんはもとより、県民の方からも信頼される施設になるよう努めてまいりますので、本年度もよろしくお願いたします。